

フランスのイベント裏話し

日仏交流社

フランスのイベント裏話し

はじめに

「フランスのイベント」と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか？「国際交流」や「日本文化理解促進」、あるいは「商機」と捉える方もいらっしゃるかと思います。確かに多様な側面を持つ「イベント」ですので、それぞれの立場から遠路遥々現地フランスまで赴き、出展される事はフランスにおける日本のコンテンツの一ファンとしてもたいへん嬉しいのですが、残念ながら「性善説」をもってフランスに行かれる事はあまりお勧めできません。

今回この本では、日本ではあまり語られない（海の向こうの事なので、詳しい事情が伝わらない？）フランスでイベントに関わって実際に起きた事例について報告させていただきます。この本を読んで、「フランスって嫌なところだな！」とは思わないで下さい。このような事例を日本の皆様に知って頂く事により逆にフランスの「日本文化・コンテンツ市場」を善くし、もっと日本の皆様に当地フランスへ来て頂きたいと思います。何よりフランスの日本文化のファン達により、これら事例を日本の皆様に報告させて頂く事ができます。自浄能力とまでは行かないかもしれませんが、彼等共々少しでもフランスにおける日本文化に対する環境を善くして行きたいと考える次第です。

フランスにおける日本ブームはかれこれ十数年以上経っています。その間多くの業者が市場に参入し、そして去って行きました。「悪化は良貨を駆逐する」という状況が続いていたのは事実ですが、そのようなフランスの一つの状況を改善して行くためにも、日本の皆様にフランスのもう一つの状況を知って頂き、フランスにおける日本文化を食い物にする輩を締め出すきっかけになればと思います。

<目次>

はじめに

とある某有名イベント「公式代理店」の裏話し

とある日本アニメ・漫画専門誌の裏話し

とあるアニメ・イベントの上映会に絡む会社の裏話し

あとがきにかえて

とある某有名イベント「公式代理店」の裏話し

これは日本でも有名なフランスの某巨大イベントで「公式代理店」を名乗る会社についてのお話しです。一応、被害者達(?)からの証言に基づいて記事を執筆致しました。このイベントはヨーロッパは勿論、今では同時期開催の北米のイベントを上回る来場者数とゲストの豪華さからよく日本のメディアでも取り上げられますが、それ故甘い蜜を吸おうと多くの善からぬ虫も集まるようです・・・。

その某巨大イベントが昨年(2009年)の開催の際、日本からある「公式代理店」を名乗る会社で出展申込者をした人達は会場入口で待たされ、非常に混乱していたとの事です。何故なら、その「公式代理店」を名乗っていた会社の窓口も、担当者さえ現場にいなかったとの事で、「公式代理店」を通して出展申込みを行っていた人達はその会社から事前に入場チケットももらえず、ただ会場入口で長い間待たされ続けていて、途方に暮れていたそうです。(しかし、当の「公式代理店」の人達は日本からの大手企業や業界関係企業に対して接待等の対応には重点を置いていたようで、そちらの対応に追われていたのだとの証言があります)「日本のエージェントを呼んで欲しい」と現地のイベント・スタッフに呼びかけても梨の礫で、入場チケットが無いためにどうする事も出来ず、「公式代理店」に手数料を支払っていたにも関わらず何の対応もしてくれなかったとの事でした。会場内でも「日本語アシスタント・ブース」が設置されていたようですが、実行力のある担当者はいつも不在で、現地で臨時に雇われていたアルバイトのような人達にさえ満足な情報伝達がなされていなかったとの苦情が寄せられています。その前年(2008年)までは会場入口には「公式代理店」の窓口があったとの事ですが、今年になって何故窓口が設置されていないのか?不思議に思った人も多くいたようでした。

これには理由があって、その「公式代理店」を名乗っていた会社はその前年(2008年)秋頃にその某巨大イベント主催団体と「日本での窓口業務」契約が切れてしまい、その某巨大イベントの「公式代理店」でも何でもなかったのです。聞くとところによると、その某巨大イベントの主催団体には無断で特段の発言権があるかのような「公式代理店」を勝手に名乗り、他にもゲストや出展者への対応不備等の失態もあって主催団体の幹部の怒りを買い、契約更新に至らなかったという事だったようです。しかし、その会社は某巨大イベントとの契約関係が切れて、「自称・公式代理店」状態だったにも関わらず、インターネット上では相変わらず「公式代理店」を名乗り、「公式参加ツアー」まで旅行代理店と組んで企画していました。某巨大イベントをインターネットで検索を掛けるとその「自称・公式代理店」がどうしても上位にヒットしてくるので正規ルートとして信頼してしまい、出展の申込みをする人達が大勢いたようです。

また、この「自称・公式代理店」を名乗る会社は他のフランスのイベントにも顔を出し、そのイベントでも日本からの出展者に対し

「このイベントの公式代理店はうちだから、うちを通してもらわなければ困る」

との苦言をのたまったと、ある出展者から聞かされました。その出展者が参加した「フランスのイベント」については、実は私は中核のスタッフを良く知っており、その話を聞いた後でスタッフの一人に確認を取った事があります。そのスタッフが言って曰くは、

「そんな「公式代理店」なんて、知らない！」

との事でした。つまり、そのイベントとは契約関係さえ無いまったくの「自称・公式代理店」だったという事です。

この「自称・公式代理店」は屋号に「コミック」とはついているものの、「コミック」とは何の関係も無い陶磁器取扱業者で、「何だか儲かりそうだから・・・」という理由だけで始めたとの事です。そのせいか、日本からのゲスト作家さんや作品等についての基礎的な知識さえ無いようで、ある大御所ゲストに対し、とんでもない大失態をやってしまい大損害を与えたとの噂があります。(私はその話をいろいろなところから掻い摘んで聞きましたが、余りの内容に驚いています。詳細について御存知の方がいらっしゃいましたら、フランスのファンのためにも詳しいお話しをお聞かせ下さい) これにより、今ではこの「自称・公式代理店」の人は、「もう漫画やアニメではなく、これからはファッションや音楽などのジャンルに重点を移す」と今後の方針を語っているようです。

思うのですが、結局フランスでの日本ブームを利用して一儲けを企む「異業種参入」の一番悪い例がこの会社ではないでしょうか？今回の日本ブームは歴史がまだ浅いので、それこそ海千山千のいろいろな人達が一攫千金を目論んで参入してきているように見えます。

ただ、日本にいてはこの会社の実情が伝わりにくいのではないかと思います。何分地理的にも遠い日本とフランスという事もあり、また言葉の壁が大きい事による検証の難しさもあると思います。何より、「フランスのイベント」についてネットで検索を掛けると必ず上位にこの会社のサイトがヒットしてしまう事が事態をより一層悪化させ、更に『日本人が経営している会社』という事がそのまま信頼に直結しているように思えます。ただ、彼等に対し、フランスでの滞在経験のある日本人からは『「日本人が経営」と言っても、(悪い意味で)ほとんどフランス人みたいなもんだ』と捉えている人もいます。何と言うか、「先に言ったモン勝ち」の状況が生み出されているように思えてなりません。

”JAPAN EXPO”も10回以上開催されているイベントになり、他にもフランスではイベントが開催されています。このようなフランスのイベントに参加経験のある方などに聞く機会がありましたらいろいろ聞いて、事前に情報を収集される事をお勧め致します。フランスにお友達や知人がいる方は、その方達を通して調べてみて下さい。遠い海外の事情が分からないのは、フランスにいる多くの日本のコンテンツ・ファンも同じです。フランスのファンも日本にいる友人・知人を通して調べたり、時に来日した際には宿泊も頼んだりしています。

もっと日本とフランスで情報の遣り取りが活発になれば、いくらかこのような会社も減って行くのではないかと思います。思うのですが・・・。

とある日本アニメ・漫画専門誌の裏話し

「日本製アニメ画像の無断商業利用」と聞くと、知的財産権に対する意識の低い国を想起される方も多いかと思いますが、恥ずかしながら昨年フランスでも、とある日本アニメ・漫画専門誌で発生しました。この雑誌は創刊当初からこのような問題により物議を醸し、ある意味フランスのダークサイド（暗黒面）を囃らずも晒していると思います。また、この編集者が開き直って語るように、海外での知的財産の保護と管理の難しい側面を端的に表しているとも思います。しかもこの雑誌はフランスで複数の日本のコンテンツ・イベントにもスポンサーとして名を連ねており、情報発信力とこれらイベントへの発言力等で今後の動向に注意が必要ではないかと思っています。

今回、できるだけ多くの完全な形の情報を纏め、(リンクや画像等を含め、「検証可能な確固たる証拠」をできるだけ挙げてみました) リポートしたいと思います。

尚、申し訳ありませんが一応具体的な固有名詞は伏せさせていただきます。
しかしながら、だからと言って嘘を書いているわけではありません。その証拠として、この記事に限り関係 URL を載せさせていただきます。フランス語が読める読者の方にはそれにより検証できると思いますし、この雑誌は今もフランスの街角で売られていますので、現物を入手する事も不可能では無いと思います。

雑誌そのものの問題点に関してはフランス語が読める人なら誰でも、以下に挙げる問題点はすぐに確認出来ると思います。

< 1 > フランスの一般人が書いたブログ記事の丸パクリ：

まず、記事に書かれてしまった本人のブログの URL を挙げておきます。

<http://www.raton-laveur.net/post/1588>

↑ フランスで初めてそれが公開されたのは、この人が記事を書いた事例です。御丁寧に本のブログの URL：<http://www.ffenril.info/2007/09/23/lucky-star/>

雑誌のスクリーンショットがあります：<http://www.raton-laveur.net/public/madeinjapan-ffenril2.jpg>
両方の URL をあげており、その一般人もそれについて書き込みをしています：

<http://www.ffenril.info/2009/03/20/comment-realiser-votre-magazine-sur-les-mangas-en-4-lecons/>

(翻訳すると「初心者のための My 漫画雑誌の作り方」という、非常に皮肉の含んだ記事のタイトルは、ブログ主が苛立って書いた記事です)

当該雑誌の問題の記事について、正誤表としてこの雑誌の次号に掲載されましたが、口調からしてまるで「名前の記載が無かった記事は、実はうちの人間の記事でした」といった感じで正誤表としては成り立っていないものでしたので、ブログ炎上につながりました。

< 2 > ネットからの画像の丸パクリ、更に無断使用：

これも画質やスタイリングを見ると、明らかに素人だと思います。

<http://www.ffenril.info/wp-content/uploads/2009/03/articlefansub.jpg>

以下 3 つの項目からしてこの雑誌が正式なものであるとの誤解により、無断使用されたアニメ作品そのものの印象やイメージに傷が付くと言っても過言ではないと思います。

- (1) リサイズも上手く行われていない、画像に圧縮の傷が付いています。
- (2) テキストの配置やプレゼンテーションもなっていません。
- (3) 日本の著作権元さんに問い合わせをすれば、使用許可は無論、ロイヤリティが支払われていない事を簡単に検証出来ると思います。

この雑誌の発行責任者は、フランスの雑誌 **J・V 誌**（現在は廃刊）の投資家で、フランスの業界でも一目置かれる人です。その人がバックになっていますので、プロ級の発信力があるとは思いますが。また、複数のイベントにこの雑誌がスポンサーとして名を連ねているのも気になるところです。尚、明らかに彼等はプロと自負しているらしく、日本でも名前が知られている **ANIMELAND 誌**と同額で出版・販売されています（6 ユーロ；これも雑誌を見れば確認出来ます）。

ただ、面白い事に上記の投資家の情報の出所は記事のパクリ騒ぎを聞きつけたその投資家本人が下記のブログに直接書き込みをした事で明らかになったのです。驚いたようで担当編集の **S**（ハンドル名の頭文字で書かせて頂きます。上記スキャンにてそのハンドルを確認できると思います）に怒ったようです。

<http://www.raton-laveur.net/post/1588?pub=1#c24879>

（その書き込みの内容を確認出来ると思います）

< 3 > 情報のチェックも不十分：

<http://www.ffenril.info/wp-content/uploads/2009/03/articlefansub.jpg>

「鋼の錬金術師」の作家さんが女性であることを知らなかったようで、「男性」として紹介されていました。「鋼の錬金術師のパパ」とあります。（下の **JUSHIN ENBU** の概要紹介のところです）

また、シリーズのタイトルにスペルのミスもしてしまうようで、「ミチコとハッチン」が「**Machiko to Hatchin**」として記載されています。これも作品のイメージに傷が付くのではないかと、ファンが懸念しています。

< 4 > ファンサブに対する広告：

これも、直接雑誌を見て頂ければ、すぐに確認出来ると思います。

<http://www.ffenril.info/wp-content/uploads/2009/03/articlefansub.jpg>

ファンサブについての記事のスキャンです。リンクも貼られています。

ファンサブ団体の名前も出ていますし、それで話題になりました。元々、ファンサーバーという人達は表立って大胆な行動を取りたがらない、「表に出てはならない」という、暗黙の了解の掟があります。それでかなり苛立ったファンサーバーも少なくはなく、特にリンクの件により、世間から余計な注目が引かれてしまう事を危惧しています。

一応、責任者の人からは一言書き込みがありました。

「多くの人がやっている事だったので、記事を掲載する判断をしましたが、出版社からのクレームがありましたので、とりあえず以後はファンサブの記事を外します。確かにサイトのリンクを貼ったのはまずかったですね・・・」

<http://www.raton-laveur.net/post/1588?pub=1#c24880>

ちなみに、「ブログ・パクリの件で、まさかうちの人間がそのような事をやっていた事実を知りませんでした。M・I・J 誌責任者として、謝りたく思います。尚、気を悪くしたであろうブログ主と連絡を取って、本来プレスで出版される料金を支払うつもりです」
とも述べましたが、この公の場で、さすがにそう言うしかありませんね（笑）。

以下の会話は、フランスにいる私の友人が上記のポイントで分析をかけて編集に詰め寄ったときのものです。フランスの某イベント会場の入口で、彼の知り合いのフランスではちょっと名の知れたブロガー（彼は、この事をちゃんと証言出来る人です）立会いのもとで行われた件の M・I・J 誌編集との会話を、今回誌上にて再現してみます。

大体、会話の流れは以下のような感じだったそうです：

（会話の前提として、私の友人が日本にいた間、ある日本の企業さんに声をかけられ、M・I・J 誌の現物を見せられた上で、「心当たりはありますか？」と聞かれたと説明したそうです。その後、上記のポイントについて質問しました）

友人）：M・I・J 誌の編集者 S（彼のハンドルネームです）さんですね？

編集）：そうだけど？そっちこそ、誰？

（※ 目線は「何だテメー」みたいな「上から目線」の感じだったそうです）

友人）：名乗るほどの者じゃないけど、ちょっと日本企業さんとは関係があって、君に忠告しておきたい事があるんだけど……。君が携っている M・I・J 誌はね、日本では色々問題になっているらしいよ？

編集）：例えば？

友人）：画像の使用許可も取れてないし、お金も出してないと聞いたのだけど、まさか 本当じゃないよね？ただのクレームでダメだったとしたら、裁判沙汰に発展する可能性もあるみたい。

編集）：それがどうした？雑誌に使われる画像の著作権等、ANIMELAND 誌とかも払わなかった事例があって、裁判まで行ったけど、結局日本側が負けたぞ？まあ、後は

ANIMELAND 誌さんは金を払うことにしたのだけど、別に俺等はそうする義理は無いね。

友人)：義理が無いって……。おい、アレは問題になるぞ！？しかも、堂々とファンサブのプロモーションまでもやっているみたいなものだし……。企業は勿論だが、当のファンサブ団体まで文句を付けているじゃないか？

編集)：アイツ等は、ただ単に自由でありたいから、企業の反面に立つことこそ俺等のポリシー。プロの業界なんかの語り部になりたくねえから。しかも、文句と言っても、俺のところにはメールは来てねえよ？別に連絡先も隠しているわけじゃねえし。文句があれば是非とも聞きますよ。(※ これはただの根拠の無い強がりです。私自身、別のソースから確認しています。各方面から文句はちゃんと来ていますが、ただフランスの企業にとって裁判へ持ち込む事については「時間と金の無駄だから放って置く」という選択肢もベストな選択肢の一つではあります)

友人)：それはいくらなんでも……。ルールに従わないとダメだろう？プロとしてやっている以上……。しかも、いくら直接 M・I・J 誌は裁判沙汰を上手くかわしていたとしても、関連会社とか、パートナー企業も変な目で見られるとは思わない？

編集)：誰がうちと組むかは勝手だよ。別に誰も強制したりしてないよ？

友人)：いや、そういう意味じゃなくて、例えば S 団体 (※ "Epitanime" みたいなアニメファンのクラブや、イベント等で活動している団体) とか、フランスのイベント P・M (この雑誌がスポンサーとして名を連ねています) とかはそのせいで変な疑いをされたらどうする？

編集)：何で疑われる？しかも、いくら裁判になっても、別にいつでも止められるし、そういう活動は……。

友人)：後は、ブログから盗まれた記事のことは……。

編集)：この件は、ちゃんと犯人に「今後このようなことのないように」と説教したし、次号で謝っただろう？

(※ 謝ったといっても書いた本人のハンドル名も間違っていました。それにただ「うちのライターの名前を入れるのを忘れました」という程度のものです。元々、盗まれた記事は一切 M・I・J 誌と関わりが無かったのですが、ERRATUM に「M・I・J 誌所属の人」みたいな事を書きました)

友人)：……なるほど。まあ、とにかくちゃんと忠告したからね。

その会話の内容を聞いた時点で私が感じた印象はまず、彼は「プロ」として捉えた場合、あまりに無責任ではないか？という事です。「著作権侵害」という単語を述べても、顔色一つ変えなかったそうです。堂々と、「何か問題があれば、逃げればいいだけの話だからさ」と答えたとの事です。仕事上の仲間たる組織がどうなっても、「知らん」といった態度だったそうです。おそらく、問題を実感していないのか、自覚がないのか、公の場で、あれほ

ど企業に反対した言動を控える自重もないところを見ると、「プロ」と名乗っている時点で私にとっては「青二才」にしか思えませんし、無謀にさえ思えてきますが、いかがでしょうか？

そして、平気で嘘を付いているようです。今までの記事から分かって頂けたかと思いますが、彼は「クレーム等は受けていません」と言いましたが、実際に彼の上司の責任者が「クレームを受けました」とネットに書き込んだ事実があります。

この雑誌の話しは事実関係（ネットに残された事実や立会人）と、その情報に基づいて得られた結論、現物を確認しただけで、ここまで酷い有様です。ありがちな個人と個人の関係で得られた不確定な噂や情報等は少ないのです。

この編集者の態度を見ていると、日本の会社はフランスまで著作権管理の目が届かないと思いついて入っているのが分かるかと思いますが、実際にそれを行動（記事に載せる等）で示しています。非常にナメた態度でもあると私は思います。

しかし一方、海外でのその知的財産権の保護と管理の難しさを表している事例であるとさえ思えます。言葉の壁や距離的な問題も然る事ながら、今や日本のコンテンツは数多くの作品タイトルがフランスを始め世界中に出回っており、それら全てを完全に保護・管理するには今まで以上に多くの人材と予算、時間が掛かる事ではないか？と思います。でも、早くこれら知的財産権保護と管理の問題に着手しないと今後も作品がリリースされて行く以上、割を食うのは日本人達ではないか？と憂慮しますが、いかがでしょうか？

これは何も知的財産権の保護と管理について日本側へ責任転嫁をしようというわけではありません。フランスで毎年開催されている“JAPAN EXPO”等の華やかなイベントのニュースや、アニメや漫画等の日本のコンテンツがいかに現地で受け入れられているかが各種メディアを通して伝わっては来ますが、日本にただけではフランスでのこのような事例がある事自体、あまり伝わって来ないのではないかと思います。まして相手の目の届かないところでは洋の東西を問わず相手は何を仕出かすか分からないというのが実情ではないでしょうか？

私としてはこの件で大騒ぎを起こす気は毛頭ありません。しかしながらこのような事例が現実にある事は、日本の皆さんにぜひ知っておいてもらいたいと思います。まして複数のフランスのイベントにスポンサーとして名を連ねている以上、日本からそのイベントに参加（ゲストや企業・サークル出展等）する事が彼等の知的財産権侵害行為に対し、日本人によって「お墨付き」を与える印象を与える結果になりはしないか？と危惧してしまいます。

今、一部ではありますがフランスの日本のコンテンツ・ファンの中には市場を健全化したい故、怪しい業者等を Web サイトで告発する動きが出てきました。フランスのファンの中には、このような謂わば自浄能力を発揮しようという有志がいる事も御理解下さい。

とあるアニメ・イベントの上映会に絡む会社の裏話し

フランスでは最古級の日本のアニメ・漫画イベントでの事です。この事例は、実は今年のイベントでの出来事で、一番ホットな話題でもあります。フランスのイベントでは日本からのゲストは勿論、イベントの花形で一番のものと言っても過言ではありませんが、同時に新作や話題作のアニメ上映会も、人気のあるイベント内アトラクションの一つです。勿論、正規の上映許可を日本の会社から得て上映会を催しますが、勝手に「フランスでの版權元」を名乗る怪しい輩もいるのも事実です。

日本でも大ヒットし、社会現象にまでなった”E“という作品の旧シリーズと劇場版を、フランスのとある学生主体によるイベント会場にて上映試写会をしようという企画が現地スタッフから持ち上がりました。フランスでの版權所有会社はD社というフランスのアニメ業界でも有力企業の一つです。この作品は既に地方のイベント会場等で劇場版シリーズの一つの上映会が2~3回行われていました。しかし、フランスでのリリースはこの時点では未定でした。“E“劇場版シリーズの一つが日本でリリースされる予定が2010年5月26日で決まり、今回被害に遭ったイベントの開催期間が2010年5月28日~30日でした。この事から、他の4月に開催されていたイベント会場の中でD社の出版社ブースの中にいた人間と相談して、時期的にもこの作品のプロモーションとして非常にいい機会だと判断し、上映許可をお願いしたわけです。日本でのリリースに併せての上映が可能なら、その盛り上がりにより違法ダウンロード等を防げるのではないかと、という事も目的にしていました。(ダウンロードするより、版權所有会社の許可がある上映会で見ることが出来るからです)

案外あっさりと了承を得られ、4月下旬になると以下の回答を会場で会った人からもらいました。

「上映は許可するが、DVD等のメディアはそちらで用意して、ネットとかからコンテンツを取得して下さい」

出版社からの回答とは思えないような回答を聞いて、現地イベント・スタッフ達も驚きました。なぜ、数回も上映している版權所有会社の人間が、このような回答をするのか？

「話している相手は、勝手に約束をしたが、何の決定権も無いのか？」、「媒体をなくしてしまったのか？」等の疑問が飛び交いました。そこで、状況を明確にするため、相手の担当の名前を聞いて、直接D社の社長と連絡をとって確認することにしました。

結局のところ、イベントの会場で会った人は、イベントでの委託販売しか行っていない、D社とは何の関係もない人間でした。名前は伏せて後ほど詳しく彼の悪行の数々を御紹介させていただきますが、この人物は別の出版社の社長でイベントの会場等ではよく威張っていて下手な約束をしたりする、かなり怪しい人間でした。相手があくまで「委託販売」しか行っていないので、通常出版されているものは容易に提供出来るのですが、当然、”E“のようなビッグ・タイトルで未だリリースされていない特別な作品に手出しする事は出来ません。その事が、彼がメディアそのものを持っていない理由だったわけです。

予想どおり、イベントのスタッフが D 社本社と直接連絡を取ってみると、「” E “ 劇場版の上映許可の問い合わせは、私達のところには一切来ていない」という回答でした。また、本来なら日本の版權元である C 社の上映許可も必要で、その問い合わせには 1 ヶ月以上かかる事も分かりました。今まで話していた、D 社の人間を装っていた相手と縁を切り、正式ルートを取ろうとしましたが、時間が不足していたため、結局許可は降りませんでした。結果的に、そのフランスの学生主体によるイベントが法律上大変な違法行為を犯しかねない状況に陥れかけただけでなく、日本でのリリースに合わせた劇場版 ” E “ の上映試写会の企画も水の泡となりました。

この件は、「学生主体のイベント」に対する「未発売アニメ作品の試写上映承諾」を匂わせた詐欺行為（日本では「偽計業務妨害」？）ではないか？と思います。フランスでは日本より学生の社会的地位は低く、どうしても「世間知らず」という事で馬鹿にされる傾向が日本より強いと思います。だからと言って「詐欺紛い（日本ではこの場合、偽計業務妨害？）」の行為は許されて良いはずは無く、まして多くのスタッフも関わり、出展する会社やファンジン・サークル、お金を払って来る来場者がいるイベントをあわや訴訟沙汰に発展しかねない危い状況にまで迫込んだのは事実です。また、この人間は他にも悪い噂が絶えない事は知っていましたが、現地のスタッフから彼の名前を聞くまでは、このような事態が進行していたにも関わらず忠告できなかった事が悔やまれます。

ここで彼の来歴について、分かっている事を御紹介させていただきます。彼は 10 年位前にフランスの中学校に児童生徒の保安要員として勤めていた時期があり、その時に何人かの子供達と海賊 CD の取引をやっていた事が学校側に発覚し、解雇された事がありました。フランスに犯罪経歴が残っています。

彼はその後、数社の会社を作ったりしています。以下の URL を御覧下さい。

※ G 社 （2004 年に法人登記）：翻訳と通訳

<http://www.societe.com/societe/gb-one-480059138.html>

2009 年 9 月 21 日、裁判所判決による清算が決定

※ T.M.社 （2006 年に法人登記）：通販

<http://www.societe.com/societe/terre-manga-493049977.html>

2007 年 3 月 13 日、裁判所判決による清算が決定

※ A.Q.社 （2006 年に法人登記）：通販

<http://www.societe.com/societe/asian-quest-493046924.html>

※ E.A.社 （2006 年に法人登記）：ビデオ媒体の出版 / 販売

<http://www.societe.com/societe/anima-493546832.html>

取締役の名前こそ載っていませんが、彼が関係していると判断できるのは住所が皆同じだからです。例えば、T.M.社と G 社は同じ住所であるとか、A.Q.社と E.A.社もまた同じ住所になっています。

他にも、アニメ化されヒットした作品 ” H ” の原作ビジュアル・ノベルの版權を持って

いるので2008年1月にフランス語版アニメ”H”の第二期作品の特典として売るという事を勝手に発表してしまいました。(実際には、交渉の段階でも何でもなかった状態だったそうです)尚、当該作品”H”の第二期作品は、現在フランスでは出版されていません。恐らく、その著作権はオプションを取られてしまっていますが(つまり、契約で他の出版社は手が出せない)、この会社に企画を実行するだけの予算が無いためにその著作権が凍結されていると思われます。それにより多くのフランスのファン達がそれを嘆いている状態にあります。また、日本のG社関係のアニメ作品のシリーズ(”H”等も含む)は、満足にライセンスとしての契約上の義務を果たしていないため、その契約が無効になっているとの噂も飛び交っています。(ロイヤリティの定期報告が日本のG社に対し満足にされてない事から、その支払いも行われていないようです)そして、”H“に関しては雇われた声優団体の「Wantake」(元はファン団体「Gotohwan」という団体でした)を倒産の危機に落としかけた事もありました。請負させた仕事の4万ユーロ分の支払いが半年以上遅れ、結局裁判沙汰に持ち込まれてようやく支払う羽目になりました。また更に、“H”の登場人物や場所の名前・名称をフランスで商標登録するような動きが一時期あったとの報告も以前聞いています。

フランスでの業界ではほとんどの出版社に憎まれている状態ですが、彼のフランスのデパート業界とのコネクションが欠かせないため、文句を言いながらも付き合っているような状態です。その所為かイベントの場では相も変わらず勝手に威張っています。例えば「自分が日本のB社の代表みたいなものなのだぞ!」(勿論、日本のB社はそれを否定しました)

フランスにおけるアニメ業界の翻訳の水準が下がってしまった事も、彼が大きく影響していると言わざるを得ません。G社という会社の時に日本語履修学生レベルの翻訳者を雇って仕事をこなしていましたが、翻訳の質は素人も同然でした。ただ、かなりの低額で迅速に仕事をこなしていた事から、フランスで他の全ての出版社(アニメや漫画)が彼を通じた時期があり、その影響で翻訳の料金の基準が大きく狂ってしまいました。

※ 学生がアニメの翻訳を好きで行っていたため、特に翻訳の料金には拘らなかった

※ かなり酷い場合は、1話が30ユーロという値段で行われていた。(字幕同期作業に10ユーロ+翻訳に10ユーロ+翻訳チェックに10ユーロという具合です)

以前、フランスのK社がある日本のアニメの翻訳をG社に委託したのですが、翻訳の質が悪過ぎてファンからの反響が酷い余り、ライセンス自体が殺されたも同然となってしまいました。

2008年には日本のある劇場映画で問題がありました。翻訳料金は3千ユーロで劇場映画だと通常、2.5倍の翻訳料金になりますが、「プロ」と言える出来ではありませんでした。フランス語の綴りや文法のミス、並びに日本語の理解不足によるミスも重なり、字幕同期も悪く(プロであればテレビ放送や劇場版上映で快適に視聴頂けるためのマニュアルがしっかりと存在しているのですが、ことごとく無視されていたそうです)

この会社を離れ、日本で就職する事が出来た翻訳者は異口同音にこの会社の悪口をいく

らでも言っています。

彼のこのような手間賃や人件費をケチるような事は何も外注スタッフに限らず、

※ 社員への残業時間の支払いも満足に行われていませんでした。

※ 人件費に関する税金の支払いでは、8万ユーロの不払いも抱えていた時期がありました

※ 社員が集団で訴えた事があり、その場の怒りで全員を解雇してしまった事がありました。その所為で結果的にフランスの労働法に抵触してしまい、「不健全な仕事環境」として社員の募集活動を凍結されてしまいました。(フランスでは仕事の条件等を訴えられた場合、その社員を解雇するような真似は非常にマズいのです)

彼が設立した会社である A 社というブランドも日本では評判が悪いため、そのほとんどの活動が凍結されて、著作権絡みの交渉は他の出版社に委託しているのが実情です。(フランスにある日本の会社等に)

また日本の D 社と提携という形でブランドを立ち上げ、漫画やゲームの出版を行うという企画がありました。D 社は元々このブランド名でフランス以外の海外でも展開を図っていたのですが、肝心のそのブランドを乗っ取られてしまい D 社はやむを得ずこのブランド名を諦めざるを得ず、結局その企画自体があっけなく終わってしまったという事がありました。そのため D 社は海外との取引に対しては異常なまでの警戒心を持つようになってしまったとの事です。

「では何故、そのような怪しい人間の言辞を現地スタッフは信じてしまったのか？」

確かにそのように言われてしまっただけで返す言葉もありますが、以前頒布しました弊サークルの同人誌：「フランスのイベント黒歴史」本にも紹介したフランス人詐欺師の例にもあるとおり、現地に住んでいる人間でさえ簡単に騙されるような「天性の詐欺師」とも言えるような嘘がたいへん上手い人がいます。今回この人間がその「天性の詐欺師」のような人間かどうかは別としても、日本のコンテンツで一山当てようと企む海千山千のような輩や、相手の隙を狙って自分の利益につなげようとしたり、自分を実力以上に誇張して売り込む輩が多いのもまた事実です。

最近よくフランスのイベントを始め、フランスのアニメ・漫画事情について聞かれる事が増えました。その際に私はよく「日本と違って『性善説』で相手と接してはいけませんよ。『性悪説』で臨むべきです」とフランスのイベント等への参加希望者に説明します。「自分にリスクが降りかかって来なければ、相手がどうなろうと知ったこっちゃ無い」という人が日本よりフランスには多いと思います。(例えば、某巨大イベントの会長などはそのような人物の代表格と言っても過言ではないような事をした過去があり、私自身、その過去の行為からあまり好きになれません)

今回御紹介したこの事例はある意味、それを象徴的に表していると思います。フランスのイベントに出展していると、現地の人間から何かしら持掛けられる事があるかも知れません。そのような時でも、100%相手の言辞を信じずに一度冷静になってツッコミ所を探してみてください。

あとがきにかえて

「フランスのイベント黒歴史」本に続き、フランスのダークサイド（暗黒面）の暴露本になってしまいましたが、私としては良い面も悪い面もあつての人間社会だと思いますので、日本とフランス、延いては世界各国と交流するにあたりその国の良い面だけではなく、悪い面も知っておく事も必要な事だと思います。

ここで口直しと言っただけですが、口絵のイラストを描いたフランスのファンジン・サークルの人達を御紹介したいと思います。まだまだ稚拙な点はあるかと思いますが、彼等のようなファンが当地フランスでも育ってきている事も知って頂きたいです。

まずは **Fabrice Lao**（ファブリス ラオ）さんを御紹介致します。

彼のハンドルネームは **Sitouanang**（シトアナング）ですので、自己紹介はハンドルネームで御挨拶させて頂いております。

皆様にまずは御挨拶申し上げます。シトアナングと申します。24歳のウェブ系開発者です。6歳の頃からアニメや漫画が大好きで、アニメを見はじめたきっかけといえば、グレンダイザー(フランスで **Goldorak**/ゴールドラクと知られている)でした。はじめての漫画作品は、さすがに「子供にはちょっと」と言われそうな、大友克洋の **AKIRA** でした。本気に絵を描きはじめてのは16歳の時(2001年；結構遅い時期かも)、私より絵が上手い友達の実力が悔しくて、本格的にやり始めたわけですが……。4年間はレベルアップを続けて大学に進学し、3年間の休憩を取ってピアノと跆拳道に集中しました。2008年から活動を再開して、現在に至るわけです。

日本で自分の同人誌を売るなんて想像すらしていなかったぐらいです！もしかしたら、私がフランスの数少ない「東方」系のイラストを描いているということが大きく影響しているのではないかと思います……。°3°

そこで、肝心の「東方」との出会いと言え、あんまり覚えていないのですが……。(笑) 多分、ネットで動画を見ていたら、IOSYSの魔理沙とアリスが登場している動画を見て、そこからYoutubeで見まくって「東方妖々夢 ～ Perfect Cherry Blossom」の再生プレー動画を発見しました。音楽にはすぐにハマっていて、スペルカードのパターンと雰囲気すぐに惚れました。私にとって「東方」とは、ボーカロイドと同様、まだ秘められている、とんでもない発想力と創作力を持ったメディアだと思います。件の「ボーカロイド」と「東方」ですが、この二つの話題は西洋のイベントを制覇しつつあるのではないかと思います。

(イラストもそうですが、よくボーカロイドのコスプレを見かける様になりました)もしかしたら近い将来、アメリカ製とヨーロッパ製の作品とグッズを見ることになるのかも知れませんね。その二つの媒体を使って今後は、西洋と東洋の間の交流が深めれば良いなと切に願っています。日本の方々の皆さんも、私たちが作っている作品もどうぞ楽しんでね！ また今度ね！！

次に **Pralyn**(プラリン)さんを御紹介します。彼女は大の腐女子で、最近のトレンドにすごく詳しい人でもあります。

こんにちは！**Pralyn**(プラリン)と申します。20代後半のフランス人で公務員の女の子です。

アニメについてですが、私の記憶の限りアニメがずっと好きでした。子供の頃、地上波の一般テレビ局にアニメがいっぱい放送されていて、毎日お母さんとアニメを見るためにテレビの前に座る事はまるで日課みたいなものになっていました。お母さんもアニメが大好きでした。そこで、アニメが終わるといつも紙一枚で今日の一話で見たキャラを良く描いていたりしていました。ある意味、アニメへの愛は本気で絵描きをやり始めた主な理由なのではないでしょうか？アニメへの愛と、絵描きへの愛は強く結ばれています。

東方について、友達にいくつかファンアート（同人イラスト）を見せられて、東方の事をはじめて知りました。そこで東方の魅力的ないっぱいいいのキャラに一目惚れをして、元々の媒体であるゲームソフトを試してみました。そういえばフランスでは東方はほとんど知られていませんが、知っている人たちは情熱を持ったいい人ばかりで、その情熱を日々広げています。いずれは、フランスで東方の世界はみんなに認めてもらえる日が絶対に訪れると信じています。

最後に、こうやって日本で販売される同人誌で私の絵が載る事について、すごく光栄に思っています。日本で私の絵が同人誌として出版されることは是非とも実現させて頂きたいと思っています。強いて言えば、それは夢です。今のところ自分の実力にあまり自信を持ってないし、それを実現出来るためにまだまだ努力して、上達しないといけないと思います。でも、いつかその夢を叶えられるという前向きな考えを持っています。もし、そういう機会を与えられたら、喜んで検討させていただきます。

彼等の作品はいずれ何らかの形で発表したいと思います。

フランスでは日本ほど同人誌（ファンジン）活動は活発ではありませんが、彼等のような描き手が育ちつつあると思います。今後は彼等のような同人誌（ファンジン）の描き手と日本のサークルが交流できたら、何か新しいものが出来るのではないかと期待もあって、機会があれば積極的に御紹介して行きたいと思います。

サークル：日仏交流社

2010年 とても暑い夏に・・・。

発行：日仏交流社

2010年8月15日